

■これまでの部会での主な意見

【全体】

- ・まずは長期的な目標を固めて共有すべき。その上で、短期・中期の方策を考える必要がある。
- ・環境と文化は一つの塊。環境と文化のバランスを図り、一緒に行っていく必要がある。

長期的な目標

環境と文化のバランス

【水環境】

- ・江津湖で活動する誰にも必要とする“水”を大事にすべき。
- ・水環境の保全は、現在の取組の継続や発信をすることが重要。
- ・水環境については、流域のつながりが重要。

水環境の保全

流域のつながり

【生物多様性】

- ・外来種の侵入・拡大により、希少種の存在が脅かされている。外来種の防除を徹底的に行い、環境の再生を図るべき。
- ・自然と人とのバランスが重要。いかに共存・共生を図っていくかが大事。

外来種対策

自然と人とのバランス

【歴史・文化】

- ・目標に“歴史・文化”を明記し、文化的資源の活用策についても考えていきたい。
- ・水前寺地区との一体性が乏しい。ストーリー性を持たせて連続的な活用策を検討すべき。

文化的資源の活用

江津湖の一体性

【情報発信】

- ・江津湖に関する情報の集積や発信の場として、ビジターセンター（仮）の設置が望ましい。
- ・江津湖の歴史・文化と自然環境を融合させて、より魅力の発信につながると思う。

情報の集積と発信

歴史文化と自然環境

環境部会の基本的考え方（目指すべき方向性）

キーワード（視点）

① 豊かな水環境の保全

② 生物多様性の保全と共存・共生

③ 歴史・文化の継承と活用

④ 場としくみの整備

① 豊かな水環境の保全

- 熊本地域における都市化の進展、土地利用の変化
- 長期的に見た湧水量の減少
- 地下水質の悪化（硝酸性窒素）

持続的な
地下水かん養対策地下水質の
保全・改善水循環
流域のつながり水循環に関する
理解と行動

② 生物多様性の保全と自然と人との共存・共生

- 動植物の消失・減少（希少種を含む）
- 外来種の侵入・拡大
- 江津湖に関する調査の不足（動植物の生育・生息状況、公園の利用状況など）
- エコトーンの減少
- 周辺の市街化
- 人の立ち入りによる生物への影響が増大

動植物の生育・生息場
の保全・復元外来種の駆除
駆除方法の検討自然と人との
共存・共生・配慮のあり方
⇒ゾーニング生物の長期的な
モニタリング調査

③ 歴史・文化の継承と活用

- 水前寺成趣園と江津湖の一体性が乏しい
- 旧砂取邸庭園や句碑等の保全と活用
- 文化的資源としての庭園の管理

連続性・一体的活用
ストーリー性歴史・文化遺産の
保全と活用散策ルート
ガイドの整備景観
コントロール

④ 感じ・憩い・学び・発信する場としくみの整備

- 自然、歴史、文化等に関する情報不足
- 江津湖の魅力や価値の発信不足
- 江津湖の自然・歴史・文化を継承する人材の育成

情報の集積

教材、環境教育
体験型プログラムの整備価値の発信
魅力の発信ビジターセンター等
の設置担い手づくり
次世代への継承